



モンゴル遊牧民生活

文責：鹿児島大学3年 金澤伯弘

機関誌部門の金澤伯弘です。2012年8月に2週間モンゴルで遊牧民と暮らし、人と動物が生活の中で密接に関わっているのを見て来ました。そのモンゴル体験記をご紹介します。



Q モンゴルに行った理由

私は**動物と人が上手く共生**できるような社会を作って行きたいとっていて、モンゴルの遊牧民の生活は、馬や羊などの家畜と共に生活してきた歴史があり、それを体験してみたいと思ったからです。また馬にも興味があり、モンゴルの**乗馬の技術や馬の扱い方**を学んでみたいと思い、馬方修行も兼ねて行きました。それ以外にも、野生動物観察や文化・習俗・言語にも興味があり、それらの勉強もしたくてモンゴルへ行きました。



Q どのように遊牧民へのホームステイを申し込んだか？

ネットで検索し、モンゴルでモンゴル人と共に遊牧民をしている日本人の**山本千夏**さんという方が **blog** をやっていたので、直接コンタクトをとりお願いしました。そして、千夏さんのゲルに滞在させてもらって、モンゴル人達と生活してきました。千夏さんはモンゴルで観光業を以前やっていて、現在は翻訳・通訳業とモンゴル大学でのツアーリズムの授業を教えています。



Q モンゴルでの遊牧民生活はどんなものか？

なるべくディープな滞在をしたかったので、**モンゴル人遊牧民と同じ生活**をしました。

初日は、仔馬の焼印式というモンゴルの伝統行事があり、仔馬に自分の家の紋章の焼印をして、自分の所有物だと分かるようにする行事です。その日の夜は、ひっきりなしに近所の人に来て酒を飲みまくりました。モンゴル人はお酒強いです。次の日以降は、ゲルの仕事を手伝いつつ、モンゴル式馬の乗り方や扱い方を教えてもらいました。滞在中に、ホスタイ国立公園で野生動物を見て、モンゴルでの野生動物保護の現状も知ることができました。ゲルの人達から**羊・牛・馬の追い方**を教えてもらったり、山に行って冬季の**家畜小屋の丸太運び**、**家畜小屋づくり**などもしましたが肉体的に結構**ハード**でした。モンゴル人は気さくな人が多く、親身になって色々なことを教えてもらいました。日本では体験できないことばかりで充実した2週間でした。



Q モンゴルから帰って来て

モンゴルでの遊牧民としての生活は貴重なものでした。水の少ない環境で、シャワーもウランバートルに戻るまで浴びることは出来ませんでした。お陰でコップ一杯の水で歯磨き・髭剃り・洗顔をできるようになりました。**水の貴重性**を強く実感しました。ゲルから少し離れた所には**オオカミ**もいるため時には銃が必要な時もありました。こういった環境の中で、家畜と共に広い草原で生活するスタイルもあるのだなぁと実感しました。最近ではモンゴルも都市化が進み、遊牧民として生活する人も減ってきているみたいです。**失われつつある遊牧民生活を大切にしていって貰いたい**と願っています。私自身は、これから様々な国や人と積極的に関わり、人と動物が共生しやすい環境を作るために何が出来るかを考え続けたいです。



最後に

色んな人会って、色んな所に行って自分をさらけ出してみらって事は大事だなんて思います。